

個別事業(取組)評価

事業No,	8	施策の柱への位置付け	柱① 学校・学級改革
事業名称	教科指導エキスパート派遣事業	担当課	小中学校課
		当初予算額(千円)	8,984
		補正後予算額(千円)	-
		決算額(千円)	8,587

		当初計画	年度末点検・評価							
①	現状 (課題) とその要因	【現状】 教員の教科指導において、児童生徒の知識や技能を様々な場面で活用する力が十分身に付いていない。	ア 正確に把握していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 全国学力・学習状況調査の結果から、特に主として「活用」に関するB問題において全国平均との格差が大きい。 【H22年度全国学力学習状況調査結果】 ※全国平均との差 国語A-0.5P 国語B+0.3P 算数A+1.1P 算数B-1.1P 国語A-2.5P 国語B-4.3P 数学A-5.1P 数学B-6.7P							
		【要因】 教科指導に関する研究・研修は増加傾向にあるが、教員の教科指導力を向上させるためのOJTが十分に機能していない。	イ 十分に特定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 全国学力・学習状況調査の結果等により、ほぼ特定できていると判断している。 【H22年度全国学力学習状況調査結果】 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている、との質問に対し「よくしている」と回答した学校の割合 <table border="0"> <tr> <td></td> <td align="center">H21</td> <td align="center">H22</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td align="center">55.9%</td> <td align="center">57.5%</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td align="center">31.9%</td> <td align="center">37.1%</td> </tr> </table>		H21	H22	小学校	55.9%	57.5%	中学校
	H21	H22								
小学校	55.9%	57.5%								
中学校	31.9%	37.1%								
②	目標 (Outcome)	① 教科指導エキスパートから支援を受ける教員が、自らの授業の課題を把握し、意識的に授業改善を行う。 ② 授業改善の意識を高め、支援を受ける教員が教材研究や教材活用の工夫を行った授業実践を行う。 ③ 各学校で実施する授業評価において、授業力向上に関する各項目の評定アップを目指す。	ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 学校改善プランの「子どもにわかる授業づくり」に関する項目に基づき、数値目標ではないが、具体的な評価指標を設定している。 エ 目標は達成されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 各学校での授業評価においてや、教科指導エキスパート連絡協議会で把握した各校の状態・取組の状況から事業の成果を確認した。 ① 教科指導エキスパートの指導・助言により、すべての学校が授業改善を行うことができた。 ② 学校改善プラン検証シートの「子どもにわかる授業づくり」の項目において、9割以上の学校が肯定的評価であった。 ③ 各学校で実施した授業評価では、全ての学校が「本事業を通じて授業力が向上した」と回答している。また、年度末報告書に記載されている内容からも、肯定的な結果が多数報告されている。 【報告書より】 ※ 外からの目で授業を見て指摘いただくことで、授業についての新たな課題を捉えることができ、大変有意義であった。 ※ 学校評価の「先生は分かりやすい授業に努めているか」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は87.5%であった。平成19年度と比較して13.5ポイント増加しており、エキスパートが加わったことによる効果であると考えている。							
		【検証(比較)方法】 ◆ 教科指導エキスパートを派遣している学校からの報告書にて確認する。 ◆ 到達度把握調査等の経年比較を行う。 ◆ 必要に応じ学校訪問にて状況を確認する。								
③	実施内容 (Input・Output)	◆ 学力向上のために積極的に取り組む市町村立学校等に、専門的な知識や技能を持った退職教員等を教科指導エキスパートとして派遣し、指導改善のための支援や助言等を行う。 ・ 6市町村 20時間/週×28週(1校あたり)×6人 ・ 連絡協議会の実施 年1回(8月)	オ 計画通り実施されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ◆ 要望のあった学校へ計画通りエキスパートを派遣することができた。 【派遣先】 8市町 10校 9名派遣 ◆ 各派遣校で、教科指導エキスパートによる指導・助言が行われた。(授業におけるチームティーチング指導、放課後等における教材研究への助言等) ◆ 報告書・学校訪問により実施状況を確認した。							
総合評価 と 今後の方向		目標達成度 B 「No」を選択した項目 <input type="text"/>	【今後の方向】 本事業は今年度で終了するが、中学校の学力問題を解決するため、各教育事務所に教科指導エキスパートを配置し、学校改善プランの柱である「子どもに分かる授業づくり」の実効性を高めるために支援訪問を行う。(H24:西部 H25以降:東部・中部)							
		【総合評価】 派遣先の各学校で各教員への適切な助言により、指導を受けた教員の授業改善で成果があった。また、授業改善の意識を高め、支援を受ける教員が教材研究や教材活用の工夫を行った授業実践を行う上でも効果があった。								